

U.S. Indicators

米国 高い伸びの後でも良好な雇用情勢を映じて拡大(17年10月小売売上高)

公表日：2017年11月15日(水)

～コア小売の拡大モメンタムは強まった～

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治

03-5221-5001

小売・飲食サービス売上高 (Retail and Food Services Sales)

	小売・飲食サービス売上高		耐久財関連 (*1)				非耐久財関連 (*2)			
			除く車	自動車	家具	家電	衣料品	ガソリン		
16/10	+0.5	(+3.7)	+0.5	+0.4	+0.5	▲1.1	▲1.3	+0.8	▲0.2	+1.9
16/11	+0.3	(+3.7)	+0.3	+0.5	+0.4	▲0.5	+0.5	+0.1	+0.2	+0.2
16/12	+0.9	(+4.0)	+0.3	+2.2	+3.1	▲0.9	▲0.5	+0.6	▲0.1	+3.2
17/01	+0.5	(+5.6)	+1.1	▲0.6	▲1.6	+1.8	+1.4	+0.9	+0.7	+2.2
17/02	▲0.2	(+4.7)	+0.1	▲0.5	▲1.5	+0.4	▲1.3	▲0.1	▲2.6	▲0.0
17/03	+0.1	(+4.8)	+0.3	▲0.5	▲0.5	+1.7	+2.8	+0.4	+2.0	▲1.0
17/04	+0.3	(+4.5)	+0.3	+0.4	+0.5	▲0.5	+1.8	+0.4	+0.2	▲0.5
17/05	+0.0	(+4.2)	▲0.2	+0.7	+1.1	+1.0	▲1.5	▲0.4	▲0.0	▲3.1
17/06	▲0.1	(+3.0)	▲0.2	+0.4	+0.4	+0.5	▲1.2	▲0.4	+0.7	▲1.4
17/07	+0.5	(+3.7)	+0.5	+0.4	+0.3	▲0.5	▲1.6	+0.6	+0.3	▲0.5
17/08	▲0.1	(+3.5)	+0.5	▲1.2	▲2.0	+0.5	+0.7	+0.5	▲0.4	+3.4
17/09	+1.9	(+4.8)	+1.2	+3.7	+4.6	+0.1	+0.3	+1.3	+0.1	+6.4
17/10	+0.2	(+4.6)	+0.1	+0.3	+0.7	+0.7	+0.7	+0.1	+0.8	▲1.2

(注) 数字は季調済前月比。但し、()内は前年同月比(未季調)。

*1:耐久財関連は、自動車・家具・家電・建材関連の売上の合計。

*2:非耐久財関連は、小売売上高の合計から、耐久財関連を除いたもの。

10月の小売・飲食サービス売上高は、前月比+0.2%と拡大

17年10月の小売・飲食サービス売上高(速報値、季節調整値)は、前月比+0.2%(前月同+1.9%)と前月の高い伸びの後にもかかわらず拡大した。市場予想中央値の同+0.0%を上回ったうえ、8、9月合計で0.3%p上方改定されており、市場予想を大幅に上回る内容。自動車販売の増加が続いたほか、家電、家具、食品・飲料なども増加した。自動車販売は、大型ハリケーン「ハービー」の襲来によって8月に大幅に落ち込んだ反動や、ハリケーン「ハービー」、「イルマ」で被災した自動車の買い替え需要等によって、支えられた。また、飲食店なども復旧が進むにつれ加速した。

内訳をみると、9月の急拡大の反動で建設資材やガソリンスタンド、通信販売が減少に転じたほか、百貨店など一般小売、その他小売が鈍化した。一方、家具、家電、薬局、衣料品、スポーツ用品・本・趣味用品、飲食店が加速した。また、自動車・同部品、食品・飲料が鈍化したものの比較的高い伸びを維持した。

10月の小売・飲食サービス売上高では、自動車・同部品が最大の押し上げ要因

10月の小売売上高の前月比(+0.23%)の寄与度をみると、マイナス寄与の業態では、ガソリンスタンドが▲0.09%、建設資材が▲0.08%、通信販売が▲0.04%となった。一方、プラス寄与の業態では、自動車・同部品が+0.15%と最大の押し上げ寄与となった。それ以外では、食品・飲料が+0.09%、飲食店が+0.09%、薬局が+0.05%、衣料品が+0.03%、スポーツ用品・本・趣味用品が+0.02%、家電が+0.01%、家具が+0.01%と続いた。その他小売り、百貨店を含む一般小売は0.00%。

10月の自動車を除く小売売上高は前月比+0.1%と減速

変動の大きい自動車を除く小売・飲食サービス売上高は、前月比+0.1%(前月同1.2%)と前月が高い伸びだったにもかかわらず拡大した。市場予想中央値の同+0.2%を下回ったものの、8、9月合計で0.2%p上方改定されており、実態は概ね市場予想

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

通りの内容となった。家具、家電、薬局、衣料品、スポーツ用品・本・趣味用品、飲食店が加速した。また、食品・飲料が鈍化したものの比較的高い伸びを維持した。

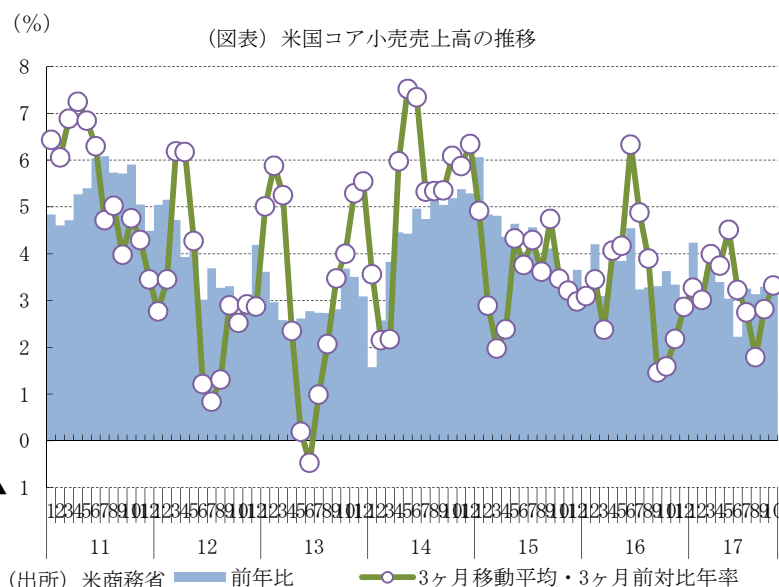
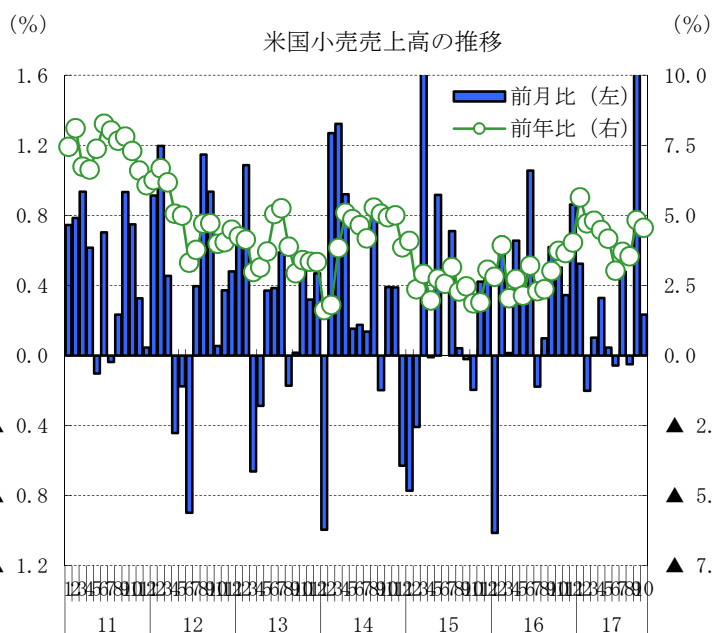
10月のコア小売売上高は前月比+0.4%と伸びを維持し、3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率+3.3%と加速

小売売上高の基調を判断するうえで重要なコア小売売上高（自動車・ガソリン・建材を除く小売・飲食サービス売上高）は、前月比+0.4%（前月同+0.4%）と比較的高い伸びを維持したうえ、8、9月合計で0.1%p上方改定された。家具、家電、薬局、衣料品、スポーツ用品・本・趣味用品、飲食店が加速したほか、食品・飲料が鈍化したものの比較的高い伸びを維持した。

また、3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率で+3.3%（前月+2.8%）と加速しており、コア小売売上高の拡大モメンタムは強まっている。全米での雇用・所得の増加傾向、株等の資産価格の上昇、消費者マインドの安定など、消費を取り巻く環境は良好な状態を続けている。このような中、小売の基調を示すコア小売売上高のモメンタムは、復旧・復興需要などもあり、一段と強まっていくと予想される。

10-12月期の実質個人消費は前期比年率+3%程度に加速する見込み

四半期で見ると、10月のコア小売売上高は7-9月期比年率+2.8%と7-9月期の前期比年率+2.8%と同率の伸びとなった。また、11、12月のコア小売も良好な雇用・所得環境を背景に拡大を続けると予想されることから、10-12月期の実質個人消費は同+3%程度（7-9月期同+2.4%）に加速すると予想される。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。